

歴史的施設「兼六園」の経済的価値に関する研究

金沢大学大学院 学生会員 ○岩井隆宏
 金沢大学工学部 黒崎智治
 金沢大学工学部 フェロー会員 玉井信行

1. 研究の位置づけ

(1) 研究の背景

金沢は観光都市である。そしてそれを支えているのは兼六園である。兼六園は電動ポンプなどない時代に、すぐれた眺望の高台で曲水の美を実現し、泉水・眺望を兼ね備えたところに、大きな価値がある。兼六園の曲水の水はすべて、辰巳用水からくる犀川の自然の水である。兼六園からおよそ10キロ上流の東岩取水口から取り入れられた水は、平均勾配230分の1という緩勾配で兼六園に給水されている。かつては多くの名園で自然の流水がつかわれていたが、栗林公園や後楽園など、現在ほとんどの庭園ではポンプによる揚水が行われており、今尚、自然の流れで水を引いている兼六園の価値はいっそう高まってきている。

(2) 研究の目的

近年、公共事業に対する見直しが行われている。環境への配慮など様々な理由により、本当に必要なものだけを作ろうとする意識が高まっている。そのため公共事業の計画段階から経済的な事前評価が行われている。その中で兼六園などといった歴史的施設は経済的価値が明確でなく、他の公共物、公共事業等との比較が容易ではない。本研究ではトラベルコスト法（以下TCM）により、歴史的施設である兼六園の経済的評価を行うことを目的としている。価値評価としては経済的尺度がもっとも広範に用いられている。そして兼六園は観光の名所であり、TCMが適用可能と考えられる。本研究を、歴史的施設の評価を行う手掛りとしていたい。

2. アプローチ

TCMとは、評価対象とする環境を享受するために発生する旅行費用を用いて環境財の便益を計測する方法である¹⁾。TCMはレクリエーションサイト一般の事後評価によく用いられる手法である。図1に既存のレクリエーションサイトの便益を計測する際の考え方を示す。TCMは直感的に理解しやすいが適用にあたっては複数目的旅行者の取り扱い、子供の取り扱い、長期滞在者の取り扱いなどの制約があり、検証すべき課題も多く残されている。今回は金沢市及び石川県が行っている観光アンケートに加え独自に実施したアンケート結果を加えて考察を行った。

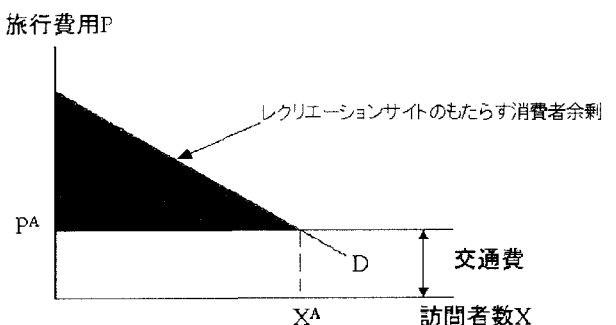


図1. 既存レクリエーションサイトの評価

3. 評価と考察

H10～H14年のアンケート結果^{2), 3)}から得られるデータを基にTCMによって兼六園が金沢にもたらす経済的効果を算出した。アンケートの集計結果から石川県内への観光客数は年間2千万人以上、その内、年平均で約660万人が金沢地域へ訪れている（図2）という結果が得られた。そして金沢地域を訪れる観光客の中で他の地域とあわせて観光している観光客の割合は、約50%であった。我々のアンケート調査によると、その内金沢へ訪れる目的度は80%、そして兼六園に来ることに対する目的度は62%であった。

Keywords: 兼六園 TCM 経済的評価

〒920-8667 金沢市小立野2-40-20 金沢大学工学部土木建設工学科 tel: 076-234-4601 fax: 076-234-4632

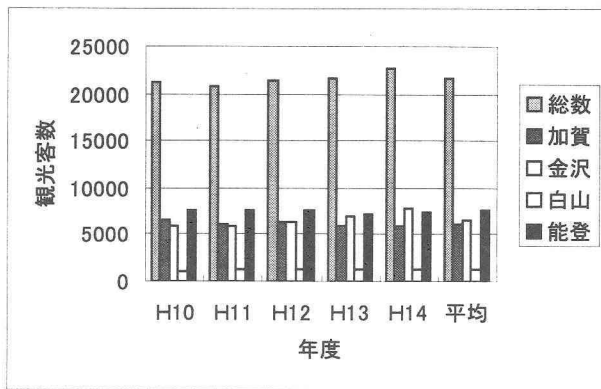
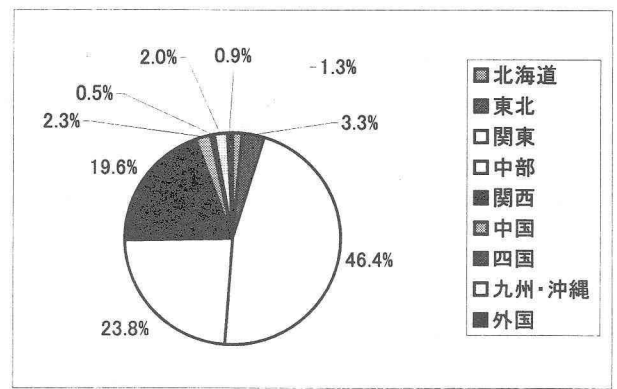


図2. 訪問先別観光客数の推移 (文献2) より作成

図3. 地域別観光客数の割合
(過去5年平均, 文献3) より作成

観光客の発地の割合は関東・中京・関西で80%以上を占めている(図3).金沢までの利用交通機関は自家用車が約50%,飛行機・鉄道が約20%を占めている.

料金の換算については一人当たりの片道交通費用を表1のように設定した.特に高速料金については乗車人数二人に対して,一人分の値を示す.

得られたデータを元としてTCMを用いて求められた兼六園の経済的価値は,年間530億円

である.そして年間530億円の経済効果に加え,兼六園は金沢の歴史的背景及び雰囲気醸し出す象徴としての役割を果たしている.他の観光名所である武家屋敷,茶屋街,寺町等は兼六園と相俟って成立していると考えられる.また,加賀地域に有る温泉地や能登地域など他の観光地域も金沢地域の恩恵を受けていることがデータからわかる.結果的には数字に表れていない効果を挙げていることは疑いようが無い.石川県を知らなくとも金沢・兼六園を知っている人がいるという現実がそう言ったことを顕著に表している.

表1. 交通費用換算表 (片道, 通常運賃)

	高速料金 (自動車)	鉄道	貸切バス	高速バス	飛行機	その他
北海道	18000	—	—	—	31000	10000
東北	11000	—	—	—	23000	9000
関東	5000	12000	3000	7500	18500	8000
中部	2900	7800	3000	4000	9500	5000
関西	3300	6000	—	3900	—	5000
中国	8000	9000	—	—	—	8000
九州	18000	—	—	—	—	10000

4. まとめ

金沢は北陸の小京都として有名である.歴史を感じさせる町並みも残り,加賀友禅,九谷焼,金箔づくりなどの伝統的な地場産業も現代に生きている.そして,そのイメージの中心にあるのが兼六園であるということを認識できる結果が得られた.歴史的施設は貨幣換算をすることが難しい.今回,兼六園は観光施設として評価が出来るため,トラベルコスト法で評価することが出来た.歴史的施設が開発の波に呑み込まれないよう,観光資産以外の見地からもその価値を数値として評価する方法の必要性を感じている.

参考文献

- 1) 河川にかかわる環境整備の経済評価研究会: 河川に関わる環境整備の経済評価の手引き (試案), リバーフロント整備センター, 1999年3月.
- 2) 石川県商工労働部観光推進総室: 統計からみた石川県の観光, 1998年, 1999年, 2000年, 2001年, 2002年, 2003年.
- 3) 金沢市経済部観光課: 金沢市観光調査結果報告書, 1998年, 1999年, 2000年, 2001年, 2002年, 2003年.